



非認知能力向上事業 《教師の学び編》

- ◆モデル校での演劇ワークショップ（WS）後、担任とファシリテーターで振り返りを行います。担任の先生方の言葉から、教師としての学びも大きいことがうかがえます。

<p>A 先生 うちのクラスで、こんなことができるのかと驚きでいっぱい。教室では見られない素敵なところがたくさん見つかった。みんなでやったらできるという自信を持っている。『自分の考えや気持ちを表現する』『他者を否定しない』『他者をわかろうとする』こと等は学級での指導と通じるものだ。</p>	<p>B 先生 普段集団から外れ、イライラして怒っている子が、グループの活動に参加し、時々離れても自分で集団に戻っている。私自身、『注意ばかりにならないように、よく観察し、声をかける』ことが大事だなと感じた。</p>
<p>C 先生 演劇 WS は、セリフがなくても構わない。動きだけで表現してもよい。間違えても大丈夫。そんな雰囲気の中でのびのびと活動できていた。うちのクラスの子は『型があると困る子』が多い。今日はゆるい枠の中で、主体的にのびのびと活動できていた。</p>	<p>D 先生 子どもだけでできるんだというのが率直な感想だ。驚いた。こんなにこの子たちにアイデアがあるんだと思った。子ども同士で決めさせることは学級でも活かせる。ファシリテーターの『子どもをのせる言葉』『子どもを肯定する言葉』を教師として大事にしたい。</p>
<p>E 先生 ファシリテーターの『待つ姿勢』『子どもに決定させている』ところは学級指導に活かそうだ。演劇 WS の子どもの様子を見てみると、周りが伸びてきているという印象だ。発言しない子どもも、ちゃんとこの時間には『居場所』がある。そんなことを演劇 WS で教えてもらって、見えるようになってきた。</p>	<p>F 先生 子どもを自由にさせるのは怖いと感じるが演劇 WS を見ている『子どもを信じて待つことは大事なことなんだな』と感じた。子どもから出てきたことで創るということを大切にしたい。また、『見え方が違って面白い』という感覚を持って、見てもらうこと自体を楽しめるようにしたい。</p>

- ◆ファシリテーターのコメントも、担任の実践を後押しするものとなっています。

学級の中でも、担任の先生がそういうチャンス（子どもが話し合う、子どもが決めるなど）を創って与えている。担任の先生がいっぱいチャンスを創っている。そういう日々の積み重ねが、今日の演劇 WS に出たという印象だ。演劇 WS を経験した彼らの記憶に、昨年の方が鮮明に残っていることは確かだ。少ない回数でも、「成功した」「乗り越えた」効果は持続する。

- ◆当然のことですが、普段の学習や生活と、演劇 WS はつながっています。3月に非認知能力向上事業検証会議が開催されます。そこで、演劇 WS の可能性について、評価・検証し、広く皆さんへお知らせする予定です。